2026年11月13日

各　位

竹田ｉＰホールディングス株式会社
（証券コード 7875）

2027年３月期 第２四半期（中間期）決算補足資料

１．セグメント別における売上高の内訳

	前中間連結会計期間		当中間連結会計期間		増減	
	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	構成比（%）	増減額（百万円）	増減率（%）
情報コミュニケーション	7,455	43.4	7,528	42.8	73	1.0
内　印刷事業	4,411	25.7	4,359	24.8	△51	△1.2
内　グローバルパッケージ事業	1,527	8.9	1,618	9.2	90	6.0
内　その他	1,516	8.8	1,551	8.8	34	2.3
ソリューションセールス	6,356	37.0	5,971	34.0	△385	△6.1
半導体関連マスク	2,980	17.3	3,725	21.2	745	25.0
不動産賃貸	390	2.3	356	2.0	△34	△8.8
小　計	17,182	100.0	17,582	100.0	399	2.3
セグメント間取引消去	△1,279	－	△540	－	738	－
合　計	15,903	－	17,041	－	1,137	7.2

（注）各セグメントならびに情報コミュニケーション内の各事業の売上高にはセグメント内取引が含まれておらず、セグメント間取引が含まれております。そのため、下記２記載の売上高と相違が生じております。

当中間期のポイント（売上高の増減の背景）

半導体関連マスク：半導体向けめっきマスク等の販売伸長に加え、大英エレクトロニクス株式会社の新規連結（2026年７月～９月分）が売上高に223百万円寄与しました。セグメント売上高は前年同期比25.0%増加し、同社の寄与額を除いても約17.5%の増収となりました。

ソリューションセールス：資材販売の伸長により、外部顧客への売上高は前年同期比5.9%増加しました。一方、前年同期のグループ内向け大型機械販売の反動などにより、セグメント売上高は同6.1%減少しました。

情報コミュニケーション：商業印刷の受注が伸び悩み、印刷事業は前年同期比1.2%減少しましたが、国内のパッケージ受注の増加により、グローバルパッケージ事業が同6.0%増加しました。

２．情報コミュニケーションセグメントにおける売上高の内訳

	前中間連結会計期間		当中間連結会計期間		増減	
	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	構成比（%）	増減額（百万円）	増減率（%）
印刷事業	4,420	57.7	4,365	56.9	△55	△1.3
グローバルパッケージ事業	1,681	21.9	1,753	22.9	71	4.3
ロジスティクス（ＢＰＯサポート）事業	527	6.9	532	6.9	4	0.9
システム関連事業	176	2.3	203	2.6	26	14.9
プロモーション支援事業	855	11.2	815	10.6	△40	△4.7
小　計	7,662	100.0	7,669	100.0	7	0.1
セグメント内取引消去	△207	－	△141	－	66	－
合　計	7,455	－	7,528	－	73	1.0

（注）情報コミュニケーション内の各事業の売上高にはセグメント内取引が含まれております。

以　上